

岩流瀬と大口のお地藏さん

岩流瀬のお地藏さんは、文明西堤の「子育て地藏堂」の屋内に安置され、赤い帽子と赤い前掛けを身に付けています。屋内のためか、肌は、六地藏のうち、一番きれいだっただのが印象的でした。

大口のお地藏さんは、福沢神社鳥居の右手前にあり、風雨にさらされていますが、傷みは少なく、白い帽子をかぶり、赤い前掛けをしていました。そばには菊の花が添えられていました。



岩流瀬のお地藏さん(右)と大口のお地藏さん(上)

※今回紹介できなかったお地藏さんについては、2月号、3月号で掲載を予定しています。

瀬戸屋敷の焰硝砂(スコリア)を調査

宝永4年(1707年)11月23日(現在の12月16日)、富士山宝永噴火がありました。足柄平野では10時ごろから地震を伴った爆発音と地震が続き、軽石が降り、夜になって黒い砂が激しく降り始めました。この砂は16日間も降り続き、開成町でも、金井島で60センチ、吉田島で40センチ、延沢で30センチ程度積もったとの記録があります。

平成19年10月29日(月)に、足柄歴史再発見クラブ(大脇良夫会長)が中心となって、瀬戸屋敷で眠っている300年前の宝永噴火の時に降った焰硝砂の発掘を行いました。発掘してわかったことは、焰硝砂が二層になって現れたことです。なぜ焰硝砂層が二層になっていたのでしょうか。

この謎を解くため、12月9日(日)、足柄歴史再発見クラブが、日本大学の宮地直道先生を瀬戸屋敷に招き、探求してもらいました。宮地先生も「これは何だろう」と穴にこもること30分、「水で流れた跡がない。流されるといろいろな物が混ざるものだが、それが見られない。そうすると、人々が運んで来た土壌(表B)ということになる」との見解でした。

子どもたちも瀬戸屋敷で現地学習

焰硝砂の発掘当日は、開成小学校の4年生が社会科の授業で現地学習をし

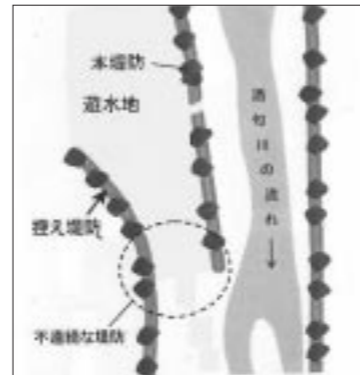
洪水の被害を軽減する霞堤

子どものころ、酒匂川のサイクリングコースを走っていると、堤防上のコースが途切れ、並行してある隣の堤防に移るのが不思議でならなかった記憶があります。なぜ、連続して1本の堤防ではないのだろうか、これで良いのだろうかと不安にさ思いました。実はそれが先人の考えた「霞堤」という知恵であったことを今回の取材で初めて知りました。

霞堤とは、堤防の所々を切って川の水が自由に出入りできるようにしてあり、洪水や氾濫の時は、遊水地となって水を受け入れます。

この霞堤、もともとの考案者は戦国の武将・武田信玄といわれており、富士川の上流(釜無川など)に築かれています。先々のことを考えて治水事業に取り組んだ信玄の知恵が、酒匂川や狩川にも伝わり、生かされていたのです。現在、酒匂川に残っている霞堤は三つ。開成町付近では、足柄大橋付近の

霞堤の仕組み



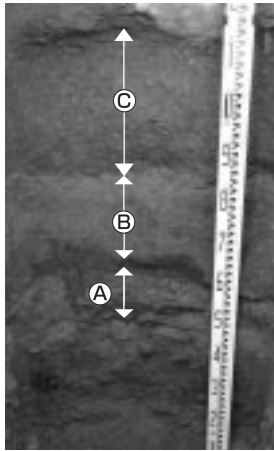
富士山宝永噴火300年史調査研究会発行「富士山と酒匂川」より

ていました。子どもたちは、大脇会長の説明を熱心に聞いてメモを取ったり、地層の写真を撮ったりしていました。

地表	
10cm	砂利層(2005年整備)
10cm	埋土層(黒っぽい有機質土)
25cm	耕土層(畑の土)
35cm	スコリア層(焰硝砂) *正徳元年(1711年)9月9日に起こった2回目の洪水で流れて来たもの
18cm	土壌層 何らかの方法で人々が運んで来た土壌
11cm	スコリア層(焰硝砂)と軽石 } *宝永5年(1708年)8月8日に起こった1回目の洪水で流れて来たもの
6cm	泥質層
35cm	宝永噴火以前の(1707年)土壌

2007年12月9日(日)発(第3版) 監修:日本大学文理学部 地球システム科学科 宮地直道教授 (記入者) 足柄歴史再発見クラブ会長 大脇良夫さん

瀬戸屋敷の土蔵近くの地面を150cm掘りました(協力者:中野建設)。地層は8層に分かれていますが、注目してほしい層はA・B・Cで、Aが1回目の洪水の跡、Cが2回目の洪水の跡です。



九十間土手と中土手の間、栢山の城北工高北側の坂口堤防と中土手の間に見られます。さらに下流には、小田原アリーナ南側の控え堤防と本堤防の間に



九十間堤



坂口堤



中曽根堤



「相模国足柄上下群酒匂川・川音川・狩川・早川堤絵図」小澤俊男氏蔵に加筆

見ることができます。先人の残した治水の知恵「霞堤」。ぜひその仕組みを語り継ぎ、将来もたせつに残していきたいと思えました。

その後、焰硝砂を袋に入れてもらい、大事に学校へ持ち帰って行きました。開成町には、まだまだ解らないこと、疑問に思っていることがたくさんあるはず。皆さんも夢を持って、いろいろと調べてみませんか。

また、瀬戸屋敷の地層は、1月半ばごろまで見ることが出来ます。瀬戸屋敷案内所にお申し出ください。



取材を終えて—温故知新

開成町の「良い所は？」と皆さんに伺うと、大抵のかたから「美しい田園風景と清らかな水の流れ」という答えが返ってきます。

富士山宝永噴火から300年になりますが、足柄歴史再発見クラブが編集した「富士山と酒匂川」を拝読し、一人でも多くの町民の皆さんにこの歴史

を知っていただきたいと考え、特集を組みました。どんなに文明や科学が発達しても、今までの歴史を無視して造ったものは、砂上の城になってしまいそうな気がします。私たちは、先人の知恵を学び、それを現代に生かしていかなければなりません。

今回特集しました酒匂川沿いにある六地藏や霞堤など、健康ウォークを兼ねて、ご自分の目と足で確かめられてはいかがでしょうか。ご協力いただいた足柄歴史再発見クラブのかたがた、資料を提供してくださったかたがたに厚くお礼を申し上げます。

まちづくり情報特派員



小野 龍男

石崎 雅美 (幹事)

萩野 安夫 (代表幹事)

前田 せつよ

瀬戸 岳志

※1月30日水NHKテレビ「その時歴史は動いた」で富士山宝永噴火により酒匂川が氾濫し、疲弊した足柄平野の復旧物語が放送されます。